

## カンムリカイツブリ（カイツブリ科） 全長56センチ

カンムリカイツブリが県内で最初に繁殖が確認されたのは、2004年に能代市の小友沼と八郎潟でした。全県的に、まだまだ少ない状態であった。

県南地域（仙北市、大仙市、横手市、湯沢市など）で最初に繁殖を確認したのは、日本野鳥の会県支部長の佐々木氏が、2011年に横手市安本の堤で親子を発見。今から11年前の事である。今では、蛭藻沼や安本の堤、樫沢沼などで普通に見ることが出来ます。いずれも横手市内であり、他の地域では見つかりません。（神宮寺の大浦沼に飛来したカンムリカイツブリを何回も観察しているが、いまだに繁殖には至っていません。）



眺めているだけで可愛い。

8月5日、安本の堤で2羽の雛を背中に乗せて、子育てに頑張っているつがいが見えた。雛の体はいわゆるゼブラパターンで、親の背中からちょこんと頭をだしている。頭頂部分が赤くなっているが、今だけの短い期間です。

背中で雛を守る親と、餌の魚を狩る親の役割が分担されているようだが、時々交代するときもあります。背中の雛は孵化後10日位だろうか。ほとんどが背中に潜ったままである。時々背中から飛び出し水面に浮ぶと、親から離れません。



らくちん、らくちん。



じっと親を見つめた。雛の頭頂部が赤い。

やがて魚をくわえた親が近づいた。この時は水上にいた雛が素早く餌を受け取ります。背中の雛は眺めているだけ。雛が背中に乗っている期間は、体が大きくなるにつれて徐々に親が拒絶するようになります。微笑ましい光景もあと10日間くらいでしょうか。



親から新鮮な魚をもらった。



必死に親の後を追いかける。